

空き家・空き店舗を活用して、まちを活性化!

岩槻で進む

「リノベーションまちづくり」



2020年2月に「リノベーションスクール@岩槻」が3日間の日程で開催されました。その際に作られた事業プランを元に、今、まちに変化が生まれようとしています。

2019年度より岩槻駅周辺エリアを主な対象として、リノベーションまちづくりを推進しています。岩槻駅周辺でも増加している、空き家・空き店舗などを活用することで、まちに新しい価値や魅力を生み出そうという取組です。

2020年2月には、さいたま市で初となる「リノベーションスクール@岩槻」が開催されました。その際につくり上げたプランを元に、空き店舗をカフェにするなどでまちに変化を起こす事業が進められています。対象物件は、岩槻駅東口からほど近い商店街にある元は化粧品店だった店舗です。手掛けるのは、リノベーションスクールがきっかけで結成された「岩槻家守舎」。代表



今回お話を聞いた「岩槻家守舎」代表の上村明日香さん。岩槻家守舎はデザイナーである上村さんと大工の金子慎太郎さん、設計士の木津大輔さんの3人で活動している

「この物件をどのように活用するか悩みましたが、直営でカフェをやることに決めました。メニューは和紅茶やほうじ茶のアレンジティーなどお茶が中心で、岩槻野菜を使ったスパイスカレーなども考えています。岩槻にはクラフト作家も多いので、地元の家が手掛けたカップでお茶を提供するなど、岩槻らしさや地元つながりを重視して運営していきたいです」

また、カフェの運営を通して、ひとつのつながりから新しいものが生まれるきっかけの場にもしていきたいそう。岩槻がますます盛り上がっていきそうです。



リノベーションスクールでは、まちを歩いて課題や活用できる点を探り、対象物件をどのように活用するか、事業計画を練り上げた



3日間のリノベーションスクールの最後には、各ユニットがつくり上げた事業計画を、空き物件のオーナーに提案

リノベーションまちづくりとは…

空き家・空き店舗などの遊休不動産と人材や産業などの今ある地域資源を活用し、まちに新しい価値を生み出すことで、「雇用の喪失」「まちなかの消費の流出」「地域コミュニティの希薄化」など、地域経営課題の解決を図っていくまちづくりの手法です。

本市では、「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」に位置付けられた事業である「都市機能の強化や定住人口増に向けた検討」の一環として「リノベーションまちづくり」を推進しています。



岩槻リノベーション
まちづくり
フェイスブックページ



岩槻家守舎
フェイスブックページ